

国営木曾三川公園整備プログラム

平成 20～24 年度の整備及び管理運営方針

平成 21 年 4 月

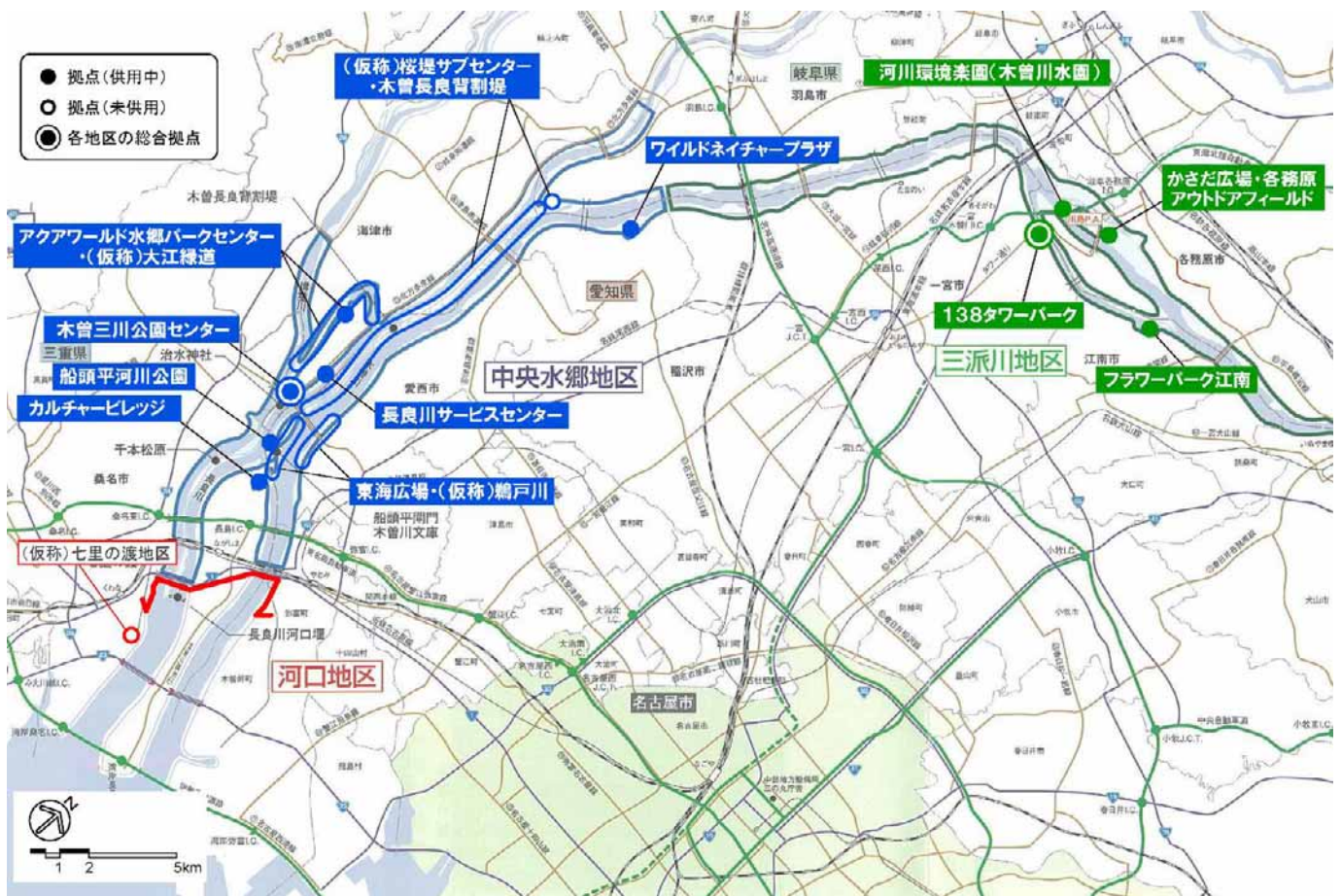
国土交通省中部地方整備局

1. はじめに

国営木曾三川公園は、木曾川・長良川・揖斐川の木曾三川が有する広大なオープンスペースと豊かな自然環境を活用し、東海地方の人々のレクリエーション需要の増大と多様化に対応するために設置された公園です。川や流域のもつ魅力である自然環境や歴史文化そして広域的な広がり・つながりをいかしながら、これらを守り・感じ・楽しみ・学ぶ場として整備を進めています。

本公園は三派川地区・中央水郷地区・河口地区の3地区（計画面積約6,100ha）からなり、11拠点（約239.1ha）が開園しています。平成19年度には年間約890万人に来園いただきました。

この整備プログラムは、社会資本整備重点計画の計画期間にあわせて、国営木曾三川公園の平成20～24年度までの整備及び管理運営に関する重点項目などを策定し公表するものです。なお、本プログラムは今後の社会情勢等を踏まえ、必要に応じて見直していきます。



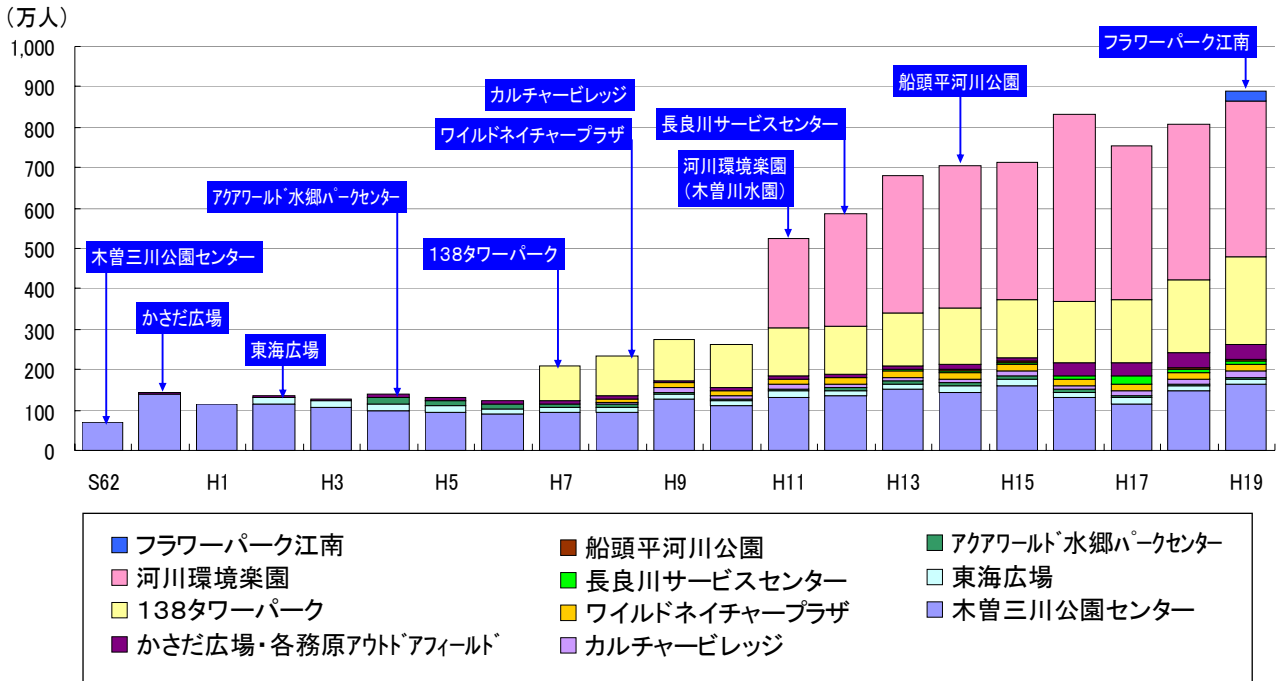
計画面積（都市計画決定面積）、事業承認面積、供用面積

（単位：ha）

地区名	計画面積（都市計画決定面積）			計	事業承認面積	供用面積
	堤内地	堤外地				
		高水敷	水面			
三派川地区	68	1,032	1,371	2,471	230.2	155.4
中央水郷地区	81	804	2,752	3,637	224.4	83.7
河口地区	2.2	7.4	0	9.6	9.6	-
計	151	1,844	4,123	6,118	464.2	239.1

※河口地区については、（仮称）七里の渡地区のみの都市計画決定面積。（平成21年3月末現在）

入園者数の推移



開園状況

地区名	拠点名	開園年月	開園面積
三派川地区	フラワーパーク江南	H19.10	9.0ha
	かさだ広場	S63.7	11.3ha
	・各務原アウトドアフィールド	H17.3	10.4ha
	河川環境楽園 (木曾川水園)	H11.7	32.6ha
	138タワーパーク	H7.4	20.4ha
中央水郷地区	ワイルドネイチャープラザ	H8.8	18.8ha
	(仮称) 桜堤サブセンター ・木曾長良背割堤	—	—
	長良川サービスセンター	H12.10	88.7ha
	ア夸ワールド水郷パークセンター ・(仮称) 大江緑道	H4.4	8.1ha
	木曾三川公園センター	S62.10	11.1ha
	東海広場 ・(仮称) 鵜戸川	H2.4	15.7ha
	船頭平河川公園	H14.4	2.7ha
	カルチャービレッジ	H8.5	10.4ha
	河口地区	(仮称) 七里の渡地区	—
合計	—	239.1ha	



三派川地区の総合拠点「138タワーパーク」



中央水郷地区の総合拠点「木曾三川公園センター」

平成21年3月末現在 (—は未供用)

2. 今後の重点的な取り組み

①木曾三川の特色をいかした整備・管理運営を進める

国営木曾三川公園は、濃尾平野のほぼ中央を貫いて流れる木曾川・長良川・揖斐川の木曾三川を基盤とする河川公園です。

これまで、堤内地での拠点整備に重点をおいてきましたが今後は、基本計画に基づきながら、計画・整備・管理運営の各段階において河川とのつながり、拠点間につながり、地域との連携を重視し、拠点の魅力の向上を図りながら、一体感のある公園づくりに重点的に取り組みます。

1) 川とのつながりを活かす

河川環境の保全・再生に留意しながら、水辺に近づける場所や川の雄大な景観を楽しめる場など、川の魅力を感じていただくための整備を進めます。

また、環境学習プログラムの提供や適正な利用の誘導、きめ細かい環境管理など国営公園ならではの高度な管理運営を行うことで、河川環境の利用及び保全・再生に資するよう努めます。

2) 拠点の魅力の向上を図る

木曾三川固有の資源としての歴史・文化・自然環境等に着眼して、その特色をいかしつつ、周辺のまちづくりとの連携により、さらに個性的な木曾三川公園らしい拠点の計画・整備・管理運営を進めます。

3) 地域と連携し、ひとつの公園としての一体感を創出する

広い範囲に拠点が存在する特色をいかして、一つの公園としてより高い効果を発揮するため、複数の拠点が連携した取り組みや、周辺のまちづくりや歴史文化資源、地域の方々と連携した取り組み等を進めます。

②より安全・快適な施設（再）整備を進める

施設の老朽化も進んでおり、時代の要請にも応えるため、すべての方に安全・快適に公園を利用していただけるよう、施設の改修やユニバーサルデザイン化を進めます。

③未着手・未供用のエリアの整備を進める

基本計画に位置づけられているものの整備に着手していない拠点や、開園していないエリアがあるため、コスト縮減を図りつつ、これらの早期の事業化や開園を進めます。

④経済的・効率的な整備・管理運営を進める

国営木曾三川公園は国営公園として皆様の貴重な税金により整備・管理運営されています。今後とも利用者の皆様に満足していただけるよう、公園サービスの維持・向上を図りつつ、効率的・経済的な整備・管理運営に努めます。



豊かな水辺環境が残るケレップ水制（(仮称)桜堤サブセンター・木曾長良背割堤の計画地）



車いすやベビーカーの方にも使いやすい施設

3. 平成24年度までの整備及び管理運営の重点事項

●河川環境を保全・再生しながら、川に親しみ学ぶ場を提供します

河川特有の自然環境の保全・再生を図りながら、川に親しんだり、水辺の広々とした空間の中で遊び、憩うことのできる公園を整備します。また、木曾三川をフィールドとした環境学習プログラムの充実に努めます。

(仮称) 桜堤サブセンター整備イメージ



七里の渡跡

●木曾三川の歴史文化に触れることのできる場を提供します

東海道の要衝であった七里の渡をはじめ多数の歴史文化遺産が集積するエリアにおいて、新しい拠点「(仮称) 七里の渡地区」の整備を進めます。また、その他の場所においても、木曾三川の歴史文化を紹介する展示や体験学習プログラムなどの充実に努めます。

●沿川のまちづくりと連携した取り組みを進めます

市民交流や観光の拠点として地域の活性化に貢献できるよう、集客力と情報発信力の向上に努めます。沿川自治体や河川管理者と連携しながら、木曾三川沿いのサイクリングロードのネットワーク化に取り組みます。



チューリップ祭り



木曾三川交流レガッタ

●水辺を活かしたスポーツやレクリエーションを提供します

ボートやカヌー、ウィンドサーフィン、トライアスロン、デイキャンプなど、水辺と広大な河川敷の空間を活かしたスポーツやレクリエーションが楽しめる場の充実に努めます。



車椅子テニス

●安全・快適に利用いただける施設とサービスを提供します

すべての方に安心して利用していただけるよう、園内のユニバーサルデザイン化を進めます。障がいのある方や高齢者、小さなお子様連れの方も楽しめるスポーツやレクリエーション、利用プログラムの充実に努めます。施設改修にあわせ案内サイン等のデザインを統一します。



ボランティアによる活動

●利用者や市民団体・NPOの方々とともに管理運営を行います

NPO やボランティアの方々との協働により、環境学習プログラムの提供、草花の維持管理などを行います。また、環境学習の指導者の育成に取り組みます。



剪定枝等の堆肥化作業

●リサイクル・省資源に配慮した管理運営を行います

園内で発生する剪定枝等の堆肥化や雨水の再利用、河川整備で発生する残土利用など、資源の有効利用とコスト縮減に努めます。



●災害時に避難地や防災拠点として機能するよう備えます

避難地や防災拠点としての機能を発揮できるよう、施設整備や自治体との連携体制の確立を図ります。

雨水貯留タンク

4. 平成24年度までの各拠点の整備及び管理運営方針

三派川地区

フラワーパーク江南

テーマ『花とみどりの学習』

暮らしの中に花やみどりを取り入れたり、身近な自然にふれる場となるよう、様々な生活場面に応じた緑化・花卉修景や河川環境を活かした整備を進めています。

今後は堤防上の遊歩道・サイクリングロードや落葉等の堆肥化施設の整備を進めます。また、引き続き市民ボランティアの方々に管理運営に参加していただきながら、園芸福祉や川を活用した環境学習プログラムの提供などにも取り組めます。



かさだ広場・各務原アウトドアフィールド

テーマ『河川の広大な空間と豊かな自然』

河川特有の自然環境を保全・再生しながら、広大な空間と豊かな自然の中で健康づくりやレクリエーションが楽しめる場となるよう整備を進めています。

今後は、散策や自然観察などに利用できる遊歩道・サイクリングロードの整備を進めるとともに、市民の方々と研究機関などの協力を得ながら竹林の伐採や外来生物対策などに取り組めます。



※この図は各拠点の概ねの位置を示したものであり、赤い点線で図示した範囲にはすでに開園している区域や平成26年度以降に整備予定の区域も含まれています。

河川環境楽園（木曽川水園）

テーマ『川の自然と文化の環境共生型テーマパーク』 木曽川水園の役割～「木曽川が育んだ自然や風土・文化を遊びながら学ぶ」

木曽川の情景や自然環境を再現した「木曽川水園」のほか世界淡水魚園や自然共生研究センターなどからなり、河川環境楽園全体が川の自然と文化に関する環境共生型テーマパークとなることを目指しています。

今後、国営公園である「木曽川水園」では、隣接する研究施設やNPOと協働・連携しながら、環境学習プログラムの充実や指導者育成に取り組めます。



138タワーパーク

テーマ『三派川地区の総合拠点』

三派川地区の総合拠点として位置づけています。

今後は、既存樹林を活かした園路を整備するとともに、市民参加による管理運営や環境学習の場としての活用をより一層進めます。また、沿川自治体と連携しながら遊歩道・サイクリングロードの整備を図り、他の拠点や周辺の公園緑地・水辺プラザ等との一体的な利用を促進します。また、平成24年度までに全面開園を目指します。



中央水郷地区

ワイルドネイチャープラザ

テーマ 『祖父江砂丘の保全と活用』

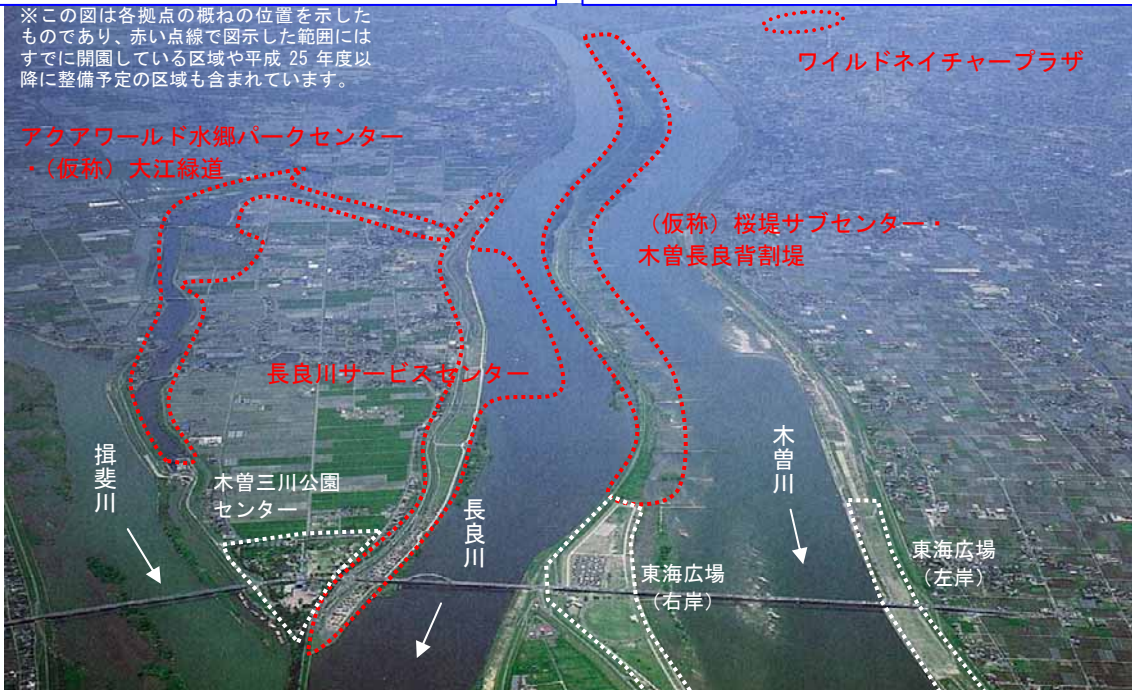
木曾川特有の河岸砂丘である「祖父江砂丘」を保全しながらウィンドサーフィン等の水辺のレクリエーションが楽しめるよう河畔デッキ等を整備しています。

今後は、隣接する稲沢市営公園や愛知県営公園等と一体的な利用ができるようにするとともに、年間を通じた利用促進を図れるよう、砂丘の利活用に向けた検討を進めます。



※この図は各拠点の概ねの位置を示したものであり、赤い点線で図示した範囲にはすでに開園している区域や平成25年度以降に整備予定の区域も含まれています。

アクアワールド水郷パークセンター
・(仮称) 大江緑道



長良川サービスセンター

テーマ 『水上スポーツ』

競技スポーツから障がい者スポーツ・レクリエーションまで、長大な水面と河川敷を活かした高度なスポーツ・レクリエーションの拠点として整備を進めています。

今後は、競技団体や大学等と連携しながら、水上スポーツや障がい者スポーツ等の活動や指導者育成の拠点として活用を図ります。また、水面や河川敷を活かした様々なスポーツやレクリエーションが楽しめるようにします。



(仮称) 桜堤サブセンター・木曾長良背割堤

テーマ 『背割堤周辺の自然と歴史』

木曾・長良背割堤に残る豊かな水辺環境と、ケレップ水制などの歴史遺産を直接体験できる場となることを目指し、平成19年に事業に着手したところです。

今後は、自然環境の状況を把握するための調査等を実施しながら、河川環境の保全・再生とふれあいの場としての整備を進め、木曾長良背割堤への入口となる(仮称)桜堤サブセンターの開園を目指します。



(仮称) 桜堤サブセンター整備イメージ

アクアワールド水郷パークセンター・(仮称) 大江緑道

テーマ 『水郷の自然と風景』

アクアワールド水郷パークセンターは、環境学習や文化活動など幅広い市民活動の拠点として利用されています。

今後は、アクアワールド水郷パークセンターと隣接する(仮称)大江緑道を水郷景観や水辺に親しむことのできる公園として活用することを目指し、自然環境調査や計画検討を進めながら、園内施設の老朽化対策を行います。また、NPO 等との連携により、環境学習プログラムの充実や指導者の育成に取り組めます。



中央水郷地区

木曾三川公園センター

テーマ『中央水郷地区の総合拠点』

中央水郷地区の総合拠点として位置づけています。
 今後は、木曾三川にまつわる歴史文化を紹介している「水と緑の館」の展示物の更新や園内のユニバーサルデザイン化などを進めます。また、周辺施設との相乗効果の発揮や交通アクセスに配慮したイベント運営に努めます。



東海広場・(仮称)鵜戸川

テーマ『水辺の自然と広大な空間』

水辺の自然に親しみ、広大な水辺の空間の中で各種スポーツやイベント、デイキャンプなど様々な屋外レクリエーションを楽しむことができる場として整備を進めています。
 今後は、木曾川左岸でもデイキャンプ場や多目的運動広場などの整備を進め、水辺のレクリエーション・エリアの拡大を図り、野外活動やスポーツなど東海地方の人々が集う広域レクリエーションの拠点を目指します。



東海広場左岸
整備イメージ

※この図は各拠点の概ねの位置を示したものであり、赤い点線で図示した範囲にはすでに開園している区域や平成25年度以降に整備予定の区域も含まれています。



船頭平河川公園

テーマ『木曾三川の水生植物』

水に囲まれた立地を活かし、ハスをはじめカキツバタ、コウボネ、ハナショウブ、スイレンなど様々な花がみられる美しい憩いの場となるよう整備を進めています。
 今後は、引き続き花による修景を行うとともに、河川管理者と連携し隣接する施設との一体的な利用促進を図ります。



カルチャービレッジ

テーマ『多様な文化活動を通じた広域交流』

スポーツや文化交流など多様な活動を通じて多くの人々が集い、にぎわいを創出する地域交流の拠点となることを目指しています。
 今後は、「輪中ドーム」を活用して多様な交流活動を促進するとともに、緑豊かな森と遊びの場を整備します。また、「輪中の郷」(桑名市)などの隣接施設と連携した取り組みを進め、平成24年度までに全面開園を目指します。



河口地区

(仮称) 七里の渡地区

テーマ『木曾三川を軸とした交流と繁栄の歴史』

木曾三川を軸に人や物の交流が生まれ、文化を育み、地域の繁栄につながった歴史を紹介する情報発信拠点として計画しています。一帯は東海道の要衝「七里の渡」をはじめ、町の象徴であった桑名城跡や旧諸戸家住宅・旧諸戸氏庭園(六華苑)・諸戸氏庭園等が残る歴史的なエリアとなっています。

今後は、桑名市の進める事業や地域の方々の活動と連携しながら、川沿いに集積する歴史遺産を一体的に結ぶ公園となるよう、平成 20 年度に事業着手しました。



その他の拠点

河口地区については、河口域特有の自然環境や川と海との結節点としての歴史文化に触れる場としての整備を進めます。今後、社会情勢や地域状況の変化等を踏まえながら、引き続き、木曾川や揖斐川河口における拠点である(仮称)河口地区センター等の整備の考え方等の見直し、河口地区の新たな区域や拠点の役割、配置等を検討していきます。



5. ネットワーク形成のための整備・管理運営方針

①遊歩道・サイクリングロードのネットワーク化

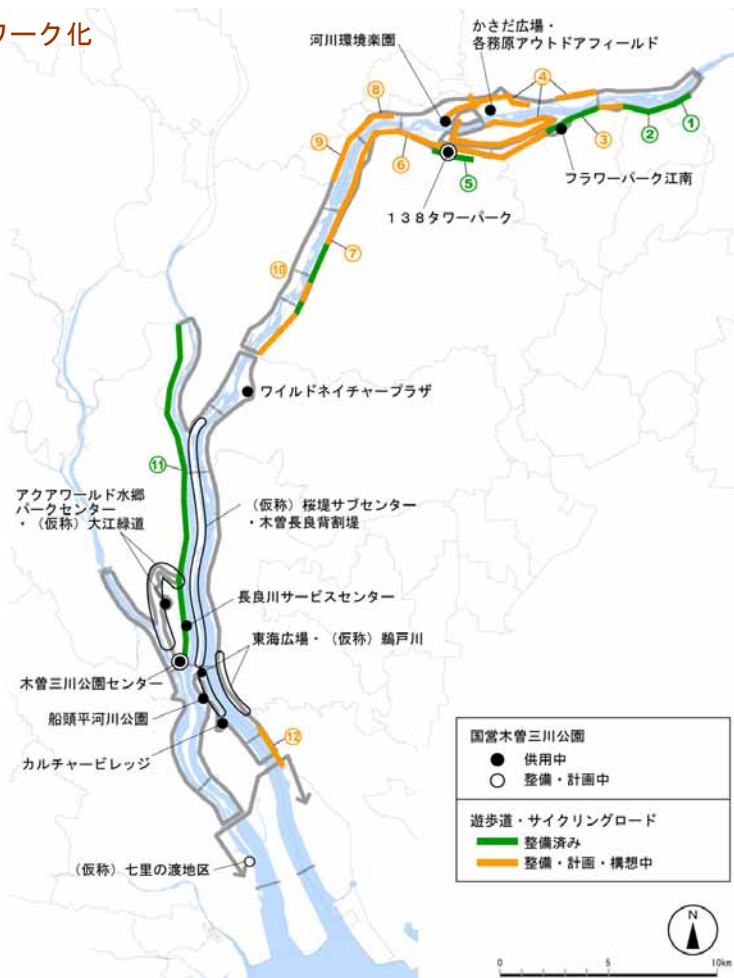
各拠点を結ぶ遊歩道・サイクリングロードのネットワーク形成に向け、沿川自治体や河川管理者と連携した取り組みを進めます。

また、その際にはトイレや休憩施設等のサービス施設の配置、コース案内等の情報提供にも沿川自治体と連携して取り組みます。

自治体において整備・計画・構想中の遊歩道・サイクリングロード

(平成19年12月実施の沿川自治体アンケートをもとに作成)

- ①木曾川犬山緑地
- ②木曾川扶桑緑地公園
- ③江南水辺プラザ・木曾川江南サイクリングロード
- ④木曾三川サイクリングロード(各務原市)
- ⑤光明寺緑地サイクリングロード
- ⑥(仮称)木曾川沿川緑地
- ⑦木曾川尾西緑地・一宮水辺プラザ
- ⑧木曾三川サイクリングロード(岐南町)
- ⑨木曾三川サイクリングロード(笠松町)
- ⑩木曾三川サイクリングロード(羽島市)
- ⑪長良川サイクリングロード
- ⑫緑道(弥富市)



②周辺地域との広域的な利用の促進

沿川自治体と連携しながら情報提供やイベント開催などの利用促進に取り組みます。また、公園へのアクセス向上などの課題に対しては、沿川自治体や関係機関と連携しながら、地域のまちづくりと一体となって取り組みます。

③エコロジカルネットワークとしての魅力や意義の発信

平成22年度に愛知県名古屋で開催される COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)に向けて、木曾三川のもつ自然環境や風土の魅力と意義を広く発信していきます。



拠点をつなぐサイクリングイベント

④流域の一体感の醸成

流域ぐるみのイベントを実施したり、整備の際に上流の地域資源を下流で活用するなどの取り組みを進め、流域の一体感の醸成に取り組みます。

⑤広汎な意見の集約と検証

公園利用者や地域住民、関係機関等の声を公園の整備・管理運営に反映させます。専門家によるアドバイスを受けながら事業を進めます。

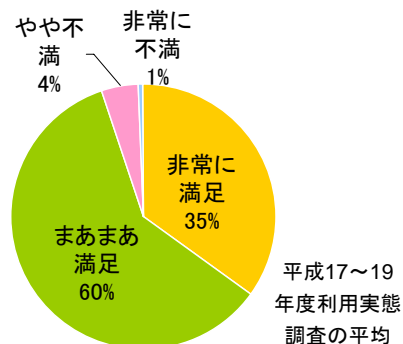
6. 事業に伴い期待される効果

①利用者数の増加

開園区域の拡大、利用プログラムやイベントの充実などにより公園の魅力が向上し、利用者数の増加が期待されます。

②満足度の向上

川を身近に感じられる空間や安心して利用できる施設を整備するとともに、市民やNPOの方々と協働して質の高いサービスを提供することにより、利用者の満足度や公園への愛着が高まります。



③自然環境や歴史文化への理解の増進

人と川とのふれあいの空間や歴史文化に関する展示学習施設を整備するとともに、質の高い体験学習プログラムを提供することにより、より多くの方々に木曾三川の自然環境や歴史文化を知っていただけます。

ネイチャーガイドプログラム

④水辺景観や生物生息・生育空間の保全

ワンド、オギ原、水辺林や樹林地などの保全と適度な維持管理を行うことにより、河川らしい水辺景観や生物生息・生育環境が保全されます。



オギ原((仮称)桜堤サブセンター計画地)



⑤地域の活性化

地域と連携してイベントを行ったり、周辺の公園緑地や集客施設との一体的な利用を促すような施設整備やイベント開催、情報発信等を行うことにより、地域の観光振興やにぎわいの創出に貢献できます。

流域地域との連携イベント「流域祭」

⑥河川空間を活かしたレクリエーションの充実

多目的に利用できる広場やデイキャンプ場などを整備したり、競技団体等と連携しながら利用プログラムの充実を図ることにより、広大な河川空間を活かした特色あるスポーツやレクリエーションをより多くの方々に楽しんでいただけるようになります。



長良川国際トライアスロン



⑦ノーマライゼーションの推進

園内のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、障がいのある方も楽しめるレクリエーションや交流の場を提供することにより、ノーマライゼーションの推進に貢献できます。

障がい者カヌー

⑧環境負荷の軽減

維持管理作業により発生する剪定枝や刈草の堆肥化や雨水利用を行うことにより、公園管理に伴う環境負荷が軽減されます。

⑨防災性の向上

避難地や防災拠点としての施設整備により周辺地域の防災性が向上します。



防災訓練